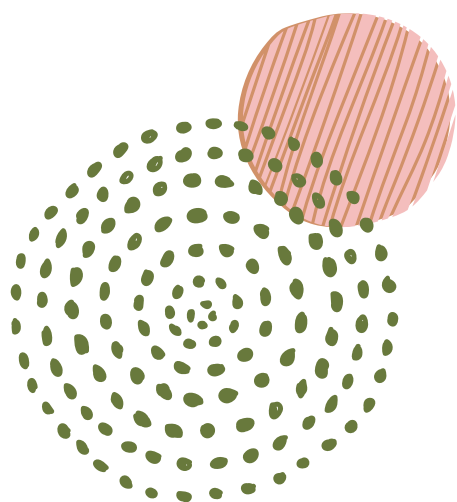


小原大冢

古希書展

作品集



デザイン
橋場未華

発刊にあたって



平成24（2012）年11月26日

仕事から帰って私は居間のテーブルの椅子に座っていた。私を見た妻が「様子が変だ」と言い、救急車を呼び旭川市日赤病院に行った。検査をした後医者「異常はありません」と言われ家に帰った。

平成24（2012）年11月27日

仕事を休んで、朝また私は居間のテーブルの椅子に座っていた。私を見た妻は再度「様子が変だ」と言い、再度救急車を呼び旭川市日赤病院に行った。検査した後医者「脳幹梗塞です。」と診断された。そして「この後どうなるのかは神のみぞ知るですね。」と言われた。

その場ですぐ入院となりベッドの上で右手と右足が動かなくなつた。このまま死ぬのかと思った。

77日後退院して、平成25（2013）年3月31日をもって、定年より1年早く仕事を辞めた。

次の年、平成26（2014）年11月に、今はない西武旭川店10階旭川市民ギャラリーで「還暦書展」を行った。

その時、10年経って生きていたら「古希書展」を行いたいと思った。

それから10年生きることができて令和5（2023）年70歳古希になった。

まだ生きている事に感謝したい。

そこで10年間、旭川書道連盟展に出品した作品9点と書創展に出品した作品1点を並べて我が家のカフェ@宇夢で「古希書展」をする事にした。

また展示する作品を載せた作品集を作成し、生きてきた足跡を残す事にした。

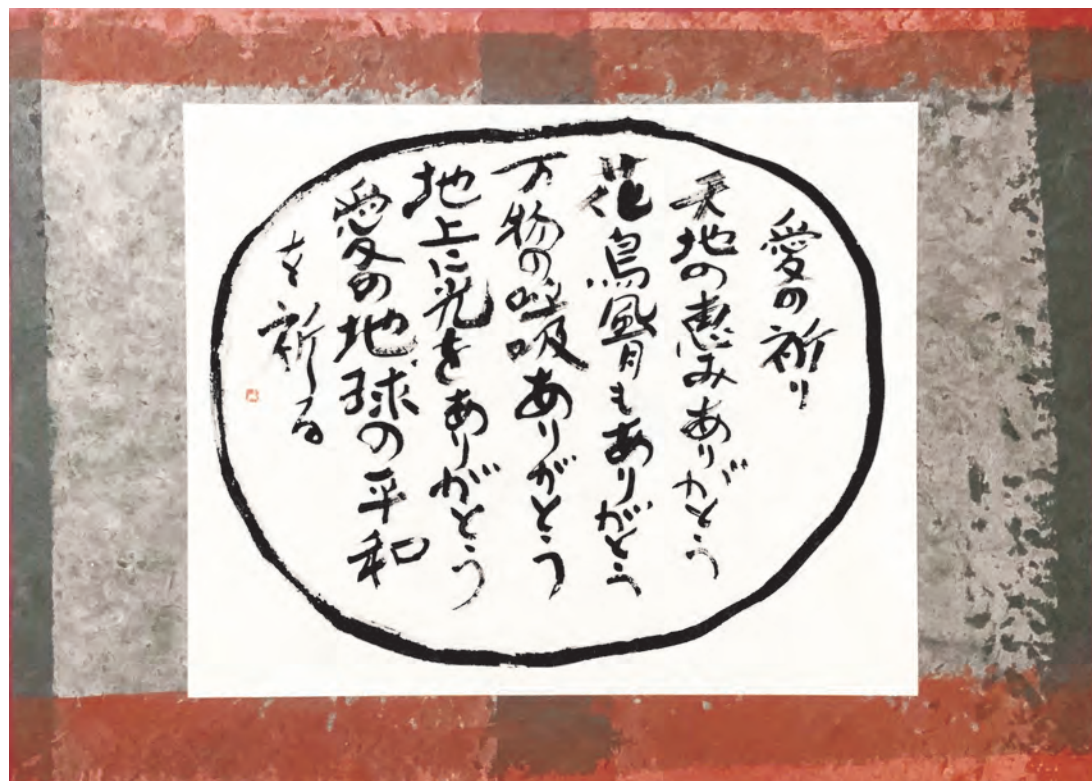




「愚公山を移す」愚公移山

この言葉は古代中国の文献集「列子」に収録された童話に由来する。愚公という老人が二つの山の北側に住んでいたが、家の出入りに不便なので自分の家の前にある二つの山を移動させようとする話が語られている。退職した年、宇園別一区に広い土地を購入し、翌年家を建てた。膝をつきながら、その土地にうつそうと茂る長い草を手で抜き、そこに防草シートを敷く作業をしていた時この言葉が頭に浮かんだ。どんなに困難なことでも辛抱強く努力を続ければ、いつか必ず成し遂げることができるといったとえ。

平成26（2014）年 第51回書創展出品作品 61歳作



宇園別に家を建て、毎日窓から外の景色を見ているうちに「花鳥風月」に対する感謝の気持ちが生まれてきた。

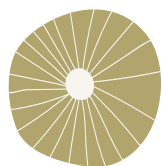
そしてこの自然が存在している地球に対する感謝の気持ちが生まれてきた。

パソコンで色々画面を見ている時この詩を見つけた。

その時の自分の気持ちに合っていると
思い書いてみたいと思った。

平成27(2015)年
第58回旭川書道連盟展出品作品 62歳作

※12ページに書の全文掲載





【愛：相手や対象をいつくしみ大切にしたいという思い。】

自分への愛・家族への愛・相手（人・動物・植物）への愛・神への愛を思っていた。

【調和：全体が整っていて互いにほどよい状態であること。】

矛盾や衝突がなくまとまっていること。偏りがなく釣り合っていること。

「愛と調和」を大事にして生きたいと思って書いた。

その時、今は亡き奈良薬師寺の僧侶高田好胤さんが言っていた「かたよらない心、こだわらない心、とらわれない心、ひろくひろくもつとひろく、これが般若心経 空の心なり」という言葉が頭に浮かんでいた。

平成28（2016）年

第59回旭川書道連盟展出品作品 63歳作

「慈愛（じあい）」



【慈愛：常に慈しみを注いで愛する心。】
「優しさ、愛情深さ、恵み、大切さ」など、
様々な意味を一度にイメージすることが
できる言葉。

孫との交流が多くなり、孫に慈愛を持っ
て接したいと思った。

隸書で伸びやかに書きたいと思った。

平成29（2017）年
第60回旭川書道連盟展出品作品 64歳作



北海道新聞の記事を読んでいてこの言葉を見つけた。

「天から授かった寿命・自然の寿命」という意味。

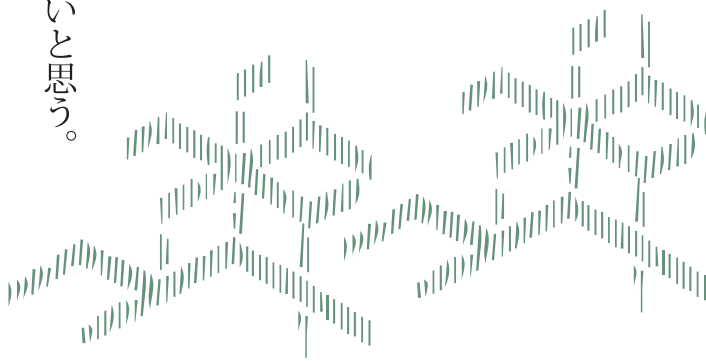
「天寿」が尽きるまで元気で生きたいと思った。

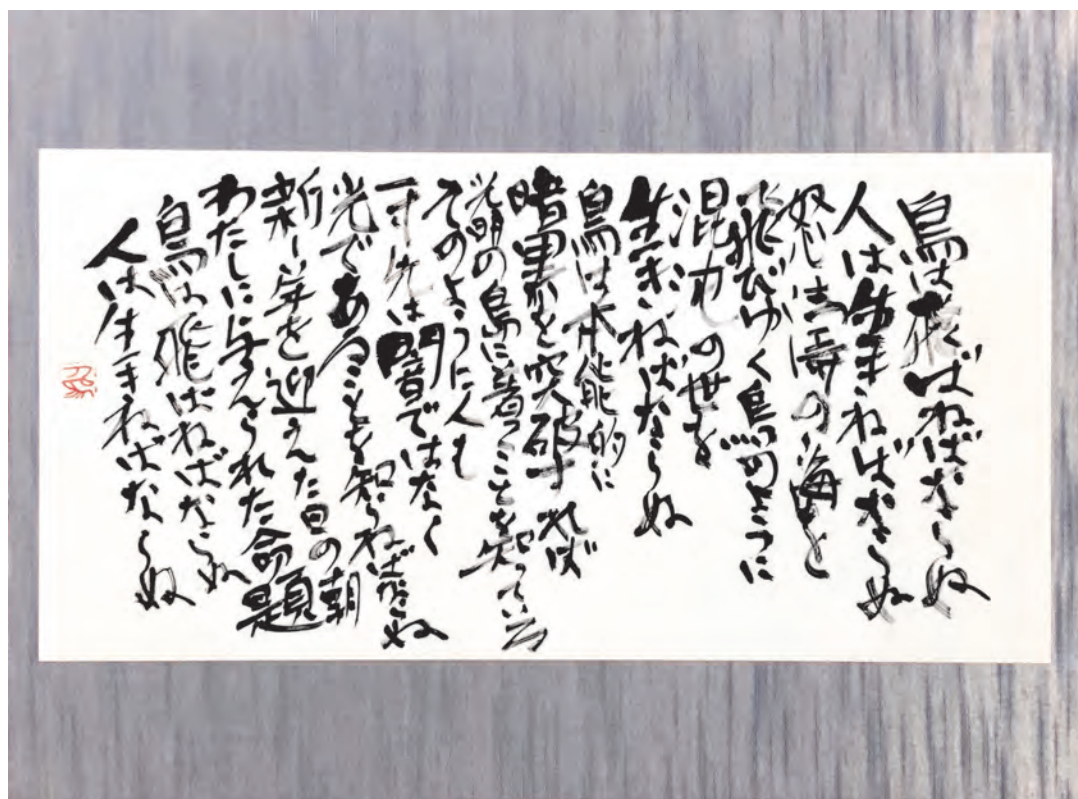
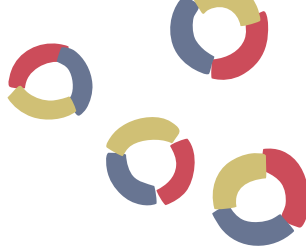
60歳 還暦 70歳 古希 77歳 喜寿 80歳 傘寿

88歳 米寿 90歳 卒寿 99歳 白寿 100歳 百寿

今70歳古希まで来た。次は80歳傘寿を目指して生きたいと思う。

平成30（2018）年 第61回旭川書道連盟展出品作品 65歳作





この年四国「愛媛県」に行き、詩人坂村真民記念館に行った。

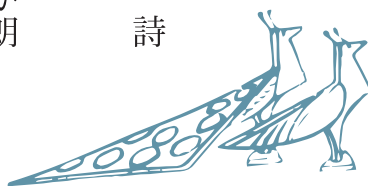
記念館内のモニターでこの詩が朗読されていた。

「鳥は飛ばねばならぬ。人は生きねばならぬ。」の言葉が強く心に残った。

この詩を書いてみたいと思った。

令和元（2019）年
第62回旭川書道連盟展出品作品 66歳作

※12ページに書の全文掲載

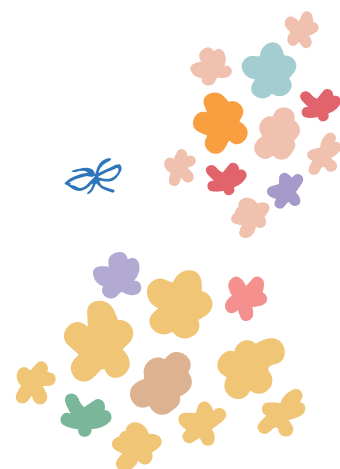
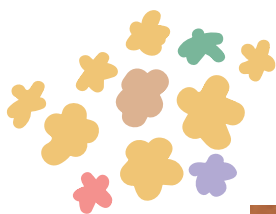




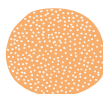
カラオケで「愛燦燦」の一節「人生って嬉しいものですね」と歌った時この言葉を意識した。
「嬉しい（心楽しい・喜ばしい・ありがたい）」の意味である。
「嬉」漢字1字を草書体で書いてみたいと思った。

この年コロナの感染拡大で連盟展は開催されず作品集だけ作成された。

令和2（2020）年 第63回旭川書道連盟展出品作品 67歳作



「私はいつも神の愛である」



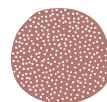
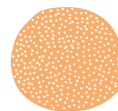
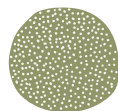
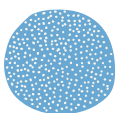
パソコンで「ライトワーカージャパン」を見ている時、大天使ミカエルのメッセージの中にこの言葉があった。

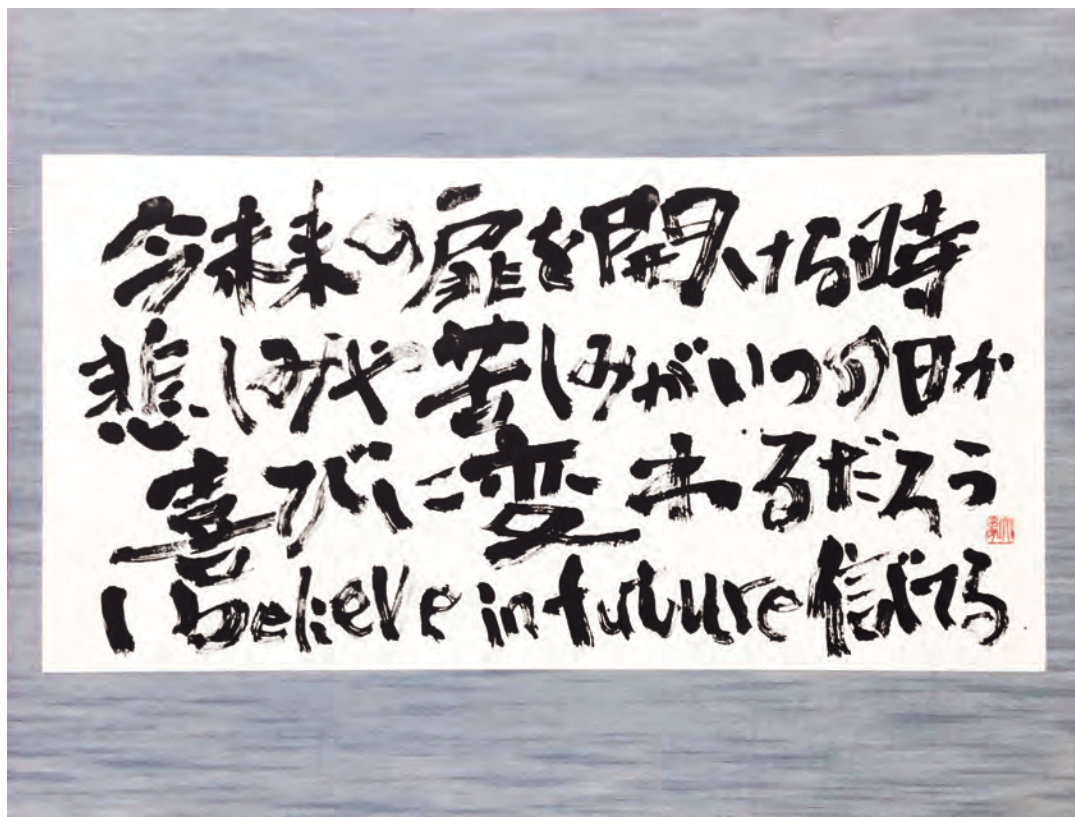
「全ての人の体の中に、神の愛が存在している」と理解した。

その時からいつも神の愛を意識して生きたいと思うようになった。

篆書体とカタカナを使っ
て書いてみたいと思った。

令和3（2021）年 第64回旭川書道連盟展出品作品 68歳作





歌「ビリーブ」の一節。

コロナウイルスの感染が拡大し、将来に不安が広がっている中でこの歌を思いついた。

いつかコロナウイルスの感染が収まり、より良い未来がやって来る事を信じこの言葉を書きたいと思った。

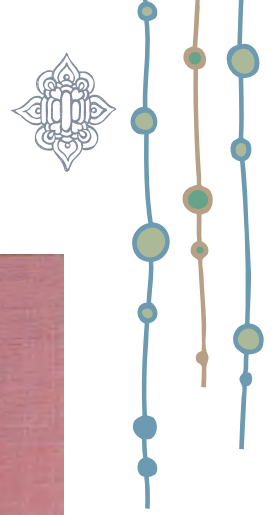
I believe in future 信じる

「私は 未来を 信じる」の意味。

令和4(2022)年
第65回旭川書道連盟展出品作品 69歳作

※12ページに書の全文掲載

「ひかりとあい」



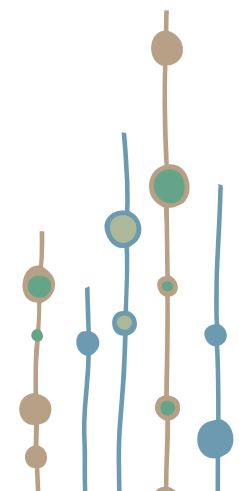
令和5(2023)年 第66回旭川書道連盟展出品作品 70歳作

毎日太陽が上り「ひかり」
を注いでくれている。

その「ひかり」のおかげで
人間も動物も植物も生きて
いる。

「光(ひかり)」は神の「愛
(あい)」だと思う。

漢字ではなく、ひらがなで
書いてみたいと思った。



愛の祈り

天地の恵みありがとう
花鳥風月もありがとう
万物の呼吸ありがとう
地上に光をありがとう
愛の地球の平和を祈る

鳥は飛ばねばならぬ

鳥は飛ばねばならぬ
人は生きねばならぬ
怒涛の海を
飛びゆく鳥のように
混沌の世を
生きねばならぬ

ビリーブ

今未来の扉を開ける時
悲しみや苦しみが
いつの日か喜びに
変わるだろう
I believe in future
信じてる



鳥は飛ばねばならぬ
人は生きねばならぬ
一寸先は闇ではなく
光であることを知らねばならぬ
新しい年を迎えた日の朝
私に与えられた命題
鳥は飛ばねばならぬ
人は生きねばならぬ



後記



毛筆で字を書く事は私の人生の楽しみです。毎年旭川書道連盟展に1つ作品を出品しています。

2014年は書創展にも出品していましたが、その年書創社を辞めたのでそれ以降は毎年旭川書道連盟展の作品を1点だけ作成しています。

1つ作ったら次に書きたい言葉が現れます。また1年間それをどのように書くか考えます。

常に前の年に書いたと作品と違う作品を書きたいと思っています。生きていく間、1年に1回の作品作りをこれからも続けたいと願っています。

そして又10年後に展覧会を行い、作品集を作り、私が生きて来た足跡を残して行きたいと思っています。

それを目標にこれからの人生を楽しく生きていきたいと思います。

2023年9月

旭川書道連盟会員 小原 大象

(正作)



078-1332
北海道上川郡当麻町宇園別1区
0166(84)2834



